

公益社団法人 日本臨床細胞学会
平成 26 年度(2014 年度)第 1 回理事会議事録

日 時：平成 26 年 6 月 5 日(木) 12 時 30 分～15 時 30 分

場 所：パシフィコ横浜 503 (5 階)

役員総数： 39 名 (理事 39 名, 監事 3 名)

出席総数：理事 39 名

(理事長)佐々木寛 (理事)青木大輔, 池田徳彦, 石井保吉, 伊藤潔, 伊藤仁, 稲山嘉明,
岩坂剛, 植田政嗣, 岡本愛光, 落合和彦, 加来恒壽, 覚道健一, 方山揚誠, 亀井敏昭,
河原栄, 川本雅司, 紀川純三, 越川卓, 児玉省二, 是松元子, 齋藤豪, 寒河江悟,
佐藤之俊, 竹島信宏, 生水真紀夫, 白石泰三, 鈴木光明, 関根浄治, 土屋眞一, 内藤善哉,
中村直哉, 根本則道, 羽場礼次, 広岡保明, 森谷卓也, 八重樫伸生, 横山繁生, 若狭研一
(監事)長村義之, 柏村正道, 長谷川壽彦
(総務幹事)板持広明, 大澤政彦, 加藤久盛, 渋谷秀美, 土居大祐, 服部学, 星利良,
山下博
(施設認定制度の適正運用検討小委員会委員長)小笠原利忠
(制度審議委員会陪席)北村隆司, 平田哲士
(会計士)中田ちず子

議長選出の議：本学会定款第 33 条に則り, 佐藤之俊総務委員長が議長となった。

議長 佐藤之俊総務委員長は定款第 34 条に則って, 理事総数の過半数(39 名)
の出席により定足数を満たしたので本法人の理事会が成立した旨を述べた。

議事録署名人選出：定款 35 条に則り, 議事録署名人は理事長並びに監事 3 名とすることが
確認された。

理事長挨拶：佐々木 寛

第 55 回平成 26 年(2014 年)春期大会挨拶：加藤久盛副大会長

1. 理事長報告：佐々木 寛

1) 細胞診 60 周年記念式典について

平成 26 年 4 月 21 日にパレスホテル東京にて細胞診 60 周年記念式典を開催し, 秋篠
宮殿下, 妃殿下ご臨席のもと盛況に終了することができた。式典については, 皇室ア
ルバム, 産経新聞等の報道機関に取り上げられた。

2) 平成 25 年度決算および平成 26 年度予算について

公益社団法人となって 1 年が経過した。本学会が NPO 法人から公益社団法人に変わり、法人としての構造変化や公的機関としての機能に対する早急な体制を整備するために種々の委員会や各ワーキンググループを立ち上げ理事長諮問の活動を行ってきた。また、臨床試験が行える公益社団法人として学術的に格上げするために学会主導の臨床試験を行っている。このため、以前より、財政上、支出が増えているのが現状である。前年度は赤字決算となり、本年度も赤字予算を組む予定であるが、これは本学会の将来に向けての基盤をつくるために大切な出資であることをご理解頂きたい。

3) 理事選挙について

先日、評議員選出の選挙が終了し、公益社団法人となつてはじめての理事選挙が行われる。種々の困難な点が予想されるため、各理事の先生のお知恵を拝借したい。

4) 社会保険について

平成 26 年度診療報酬が改正され、社会保険委員会の稲山委員長のご努力により、婦人科領域においては最初から液状化検体細胞診が使用可能となり、婦人科材料等液状化検体細胞診加算として、18 点を所定点数に加算されるようになった。これは、非常に画期的なことである。現在、内保連内に病理関連委員会が新設されることとなっており、本学会として従来上手くいかなかった保険行政が実行される仕組みが出来た。

5) 専門医制度について

先日、社団法人「日本専門医機構」がスタートした。この機関に細胞診専門医が新しい専門医として早急に認可してもらえるよう、細胞診専門医委員会 植田委員長とともに申請を早急に行いたい。

6) 臨床研究について

本学会主導の婦人科臨床試験は、青木副理事長を委員長として順調に進行している。今後も継続して行う予定である。また、B.D. 社をはじめとする各施設からの委託研究も行っており、これからも引き受ける形である。現在、公益社団法人として、大学と同様に公的研究機関としての申請を文部科学省に行っている。許可されれば、日本臨床細胞学会の名称で研究者の申請番号を登録出来る団体に格上げ出来る。今後の方向性として、臨床研究を引き受ける場合は、透明性に十分留意していきたい。

2. 副理事長報告

岩坂 剛：佐々木理事長を中心とした全般的な学会運営に協力。学術方面を担当し、春・秋、年 2 回開催されている学会プログラム作成に協力。55 回春期大会においては細胞診専門医選定指定講座の選定、専門医会会長の意向に沿った形での専門医セミナーの選定、教育研修指導医セミナー等々の選定を行った。

土屋 眞一：昨年、理事長諮問の細胞診ガイドライン作成ワーキンググル

ープを立ち上げた。内藤理事を総括責任者とし、現理事の約半数が約 20 種類の各臓器の編集に関わっている。来年の 3 月を目途に、5,6 冊に分冊して日本臨床細胞学会として発刊予定。現時点では、用語統一が未だなされていない状況のため、数年を目途に改訂を行っていく予定である。

- 青木大輔：1) 財務. 計理委員会 池田委員長を中心に申し分なく行われているが、全体の流れとしては赤字基調である。公益社団法人としてスタートしたことによる出費や委員会活動の活発化による出費等々があり、少し落ち着くまでは状況をしっかりと見守っていききたい。また、計理委員会においては、赤字基調の対策も考案されており、その声明を待ちたい。
- 2) 国際交流. 内藤理事を委員長とする国際交流委員会にてアジアを中心とした国際交流が活発に行われている。引き続きお願いしたい。
- 3) IAC. 長村監事が 2016 年に IAC の理事長に就任予定であり、全面的に本学会にてバックアップしていききたい。また、同年に、the 19th International Congress of Cytology(略称:ICC2016)のお世話をする事になっており、同時に上手く連携をとりながら進めていきたい。
- 4) 選挙. 今年度は公益社団法人になってはじめての選挙であり、理事長より選挙委員長を任命された。先日、評議員選出委員会を行い、評議員選挙は終了した。次は、理事候補選挙委員会を立ち上げ、理事選出を行う予定である。

若狭研一：細胞診専門医委員会の植田委員長とともに、細胞診専門医試験・専門医教育研修についての充実化を図ってきた。このまま継続していくことで、細胞診専門医は日本の専門医制度の中で大きな位置を占めていけると思われる。

3. 庶務報告 (佐藤之俊 総務委員会委員長)

全会員数：11,929 名 (正会員 5,582 名, 準会員 6,318 名, 図書会員 29 件)

細胞診専門医数：2,698 名 (実数) (認定 3,171 名)

F I A C : 111 名 M I A C : 38 名

細胞検査士数：7,116 名 (実数) (認定 8,831 名)

C T (I A C) : 4,752 名

物故会員

(正会員)

名 誉 会 員 杉下 匡 先生 ((医) 育愛会 育愛会レディースクリニック
産婦人科 名誉顧問)

功 勞 会 員 城所 仿 先生 (国際親善総合病院 名誉顧問)

細胞診専門医 末廣 泰子 先生

	安藤 政克	先生	(旭川赤十字病院 病理診断科)
	早田 隆	先生	(白浜病院 精神科)
	鹿島 健司	先生	
医師会員	石川 久夫	先生	((医) 社団石川産婦人科 院長)
細胞検査士 (準会員)	千田 育司	殿	(大阪府医師会保健医療センター 病理細胞診)
細胞検査士	馬渡 聖子	殿	(佐賀県医療センター好生館 病理検査科)
	荻原 重正	殿	(小諸厚生総合病院 臨床検査科)
	成澤 知里	殿	(医療法人社団圭春会小張総合病院 病理部)

黙祷

- 第53回平成26年(2014年)秋期大会準備状況:(亀井敏昭理事)
会期:平成26年11月8日(土)・9日(日)
場所:山口 海峡メッセ下関・下関生涯教育プラザ
- 第56回平成27年(2015年)春期大会準備状況:(紀川純三理事)
会期:平成27年6月12日(金), 13日(土), 14日(日)
場所:松江市 くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)
- 第54回平成27年(2015年)秋期大会準備状況:(越川卓理事)
会期:平成27年11月21日(土)・22日(日)
場所:名古屋 名古屋国際会議場
- 第57回平成28年(2016年)春期大会準備状況:(青木大輔副理事長)
会期:平成28年5月27日(金), 28日(土), 29日(日)
場所:神奈川 パシフィコ横浜

8. 審議事項および議決結果

審議事項

- 平成27・28年度評議員選出について
- 平成27・28年度理事選出について
- 会員資格喪失者の会員資格復帰について
- 第55回(2016年)秋期大会長選出について

議事の経過の概要および議決結果

- 平成27・28年度評議員選出について
平成26年5月10日に評議員選出委員会が開かれ、評議員候補者の選出を行った。本

年度の正会員数は 5558 名であり、評議員申請者 489 名中、施行細則上の正会員数の 8% を超えない、上位 444 名が評議員候補者として選出され、全候補者が評議員として承認された。

2) 平成 27・28 年度理事選出について

理事候補選挙管理委員会の構成案が青木委員長より提示され、承認された。また、青木委員長より、1) 理事選を立候補制とする 2) 地方選出理事の比例配分について各地域に必ず最低 1 名の理事候補者を配し、全評議員数の約 10% に理事候補 1 名を各地域の評議員数に応じて追加配分することが提案され、それらに関する施行細則の改定案が資料に沿って提示され、協議の結果、承認された。

3) 会員資格喪失者の会員資格復帰について

会員資格の復帰希望者が 3 名おり、いずれも免許停止前の滞納年会費の完払と理事長の承諾という内規上の基準をみたしており、希望者全員の会員資格復帰が承認された。

4) 第 55 回（2016 年）秋期大会長選出について

横山繁生理事が推薦され、全員一致で承認された。

9. 各種委員会での議事の経過概要および議決結果

総務委員会（委員長 佐藤之俊）

〔報告事項〕

1. 平成 25 年度事業報告、決算案および平成 26 年度定時社員総会開催についてみなし理事会が開催され、承認された。
2. 総会準備状況について
平成 26 年 6 月 7 日 16:00～18:00 パシフィコ横浜 1 階メインホールにて開催予定。

〔審議事項〕

1. 現状に即した交通費の支給方法についての原案を総務委員会内で作成することが承認され、原案の理事会内での審議・承認後、細則を改定する方向性が示された。
2. 2011 年および 2012 年の会費滞納者の一覧が提示され、会員資格が停止されることが承認された。

情報処理委員会（委員長 石井保吉）

〔報告事項〕

1. 総会へ向けての総務委員長からの配信メールを要約し、47 都道府県細胞検査士会代表者へメール配信した。
2. ホームページ、とくに、試験要項や資格更新・施設認定・選挙についての項目が見にくいとの指摘があった。今年度は改善を加える予定である。

〔審議事項〕

特になし

医療安全委員会（委員長 森谷卓也）

〔報告事項〕

1. 平成 25 年度は MSC ホットラインの利用実績がなかった。広報に努めるとともに、状況によっては利用の仕方などを検討する必要がある。

〔審議事項〕

特になし

倫理委員会（委員長 中村直哉）

〔報告事項〕

1. 平成 25 年度は倫理に関するトラブルはなかった。
2. 総会時に学会員に対する啓発活動として教育講演を行う。55 回では「研究・学会発表時の倫理(仮)」と題して宇津木伸先生の講演を企画した。

〔審議事項〕

1. 日本医学会からの「疫学研究に関する倫理指針」及び「臨床研究に関する倫理指針」の遵守、周知徹底の方法について依頼が提示され、事前に送信したその資料内容の再度の確認についての呼びかけがあった。

利益相反委員会（委員長 岡本愛光）

〔報告事項〕

1. 疫学指針、臨床指針の見直しに向けた倫理審査委員会の現状に関する全国調査を平成25年9月15日付けで回答した。
2. 平成26年2月28日の「日本医学会COIマネージメント研修セミナー」に高倉委員が参加した。
3. 平成26年5月22日に、メールでの通信会議を行い、下記の指針の見直しを検討したが、現在のところは見直しの必要はないと判断した。1の見直しの最終結果を待ってから、再度見直しを行う予定である。
 - 1) 細胞診断学に関連する医学研究の利益相反に関する指針
 - 2) 「細胞診断学に関連する医学研究の利益相反に関する指針」の施行細則
 - 3) 「細胞診断学に関連する医学研究の利益相反に関する指針」のQ&A
 - 4) 平成26年度のCOI書類提出を催促する予定である。
4. 平成 26 年度の COI 自己申告書の確認と COI 状況の把握を行う予定である。
5. COI を行った(不申告者)に対する罰則の規定の検討を行う予定である。

〔審議事項〕

特になし

学術委員会（委員長 紀川純三）

〔報告事項〕

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の公募についてイエローページに公示、ホームページにも掲載予定である。（応募締切：平成 26 年 7 月 9 日）

〔審議事項〕

特になし

計理委員会（委員長 池田徳彦）

〔報告事項〕

1. 平成 25 年度日本臨床細胞学会決算の作成と承認.
2. 平成 26 年度日本臨床細胞学会予算の作成と承認.

〔審議事項〕

1. 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社からの寄附金について
 - 1) 平成 26 年 2 月 25 日に受け取った 11,719,523 円の寄附金について、「自動化細胞診支援システム使用による、婦人科細胞診の精度管理における有用性に関する後方視的検討」臨床研究に用途を特定した資産にし、積立を行うことが承認された.
 - 2) 平成 26 年度での頸部細胞診に係る費用は当該積立金を先行して充当することが承認された.

編集委員会（委員長 竹島信宏）

〔報告事項〕

1. 日本臨床細胞学会雑誌 Vol 53 (No 1, 2)を発行した.
2. 投稿規定を改定した. これに伴うシステムの変更を作業中.
主な改訂点は以下の通り,
 - 1) 新しい論文種別として、「調査報告」を追加した.
 - 2) Acta Cytologica には直接投稿するように記載した.
 - 3) 「特集」における一括郵送という事項を削除した.

〔審議事項〕

特になし

細胞診専門医委員会（委員長 植田政嗣）

〔報告事項〕

1. 平成 25 年度細胞診専門医資格認定試験結果
平成 25 年 12 月 1 日(日)に「AP 浜松町」で施行. 受験者 135 名(総合科 113 名, 歯科・口腔科 22 名), 合格者 103 名(総合科 86 名, 歯科・口腔科 17 名), 合格率 76.3%.
2. 平成 25 年度細胞診専門医資格更新審査

平成 26 年 2 月 23 日(日)の第 3 回細胞診専門医委員会にて平成 25 年度細胞診専門医資格更新審査対象者 808 名の審査を行った。更新可 676 名、不備有更新未完了 39 名、更新辞退 5 名、未申請 88 名(督促中)。

3. 平成 26 年度細胞診専門医資格認定試験

平成 26 年 11 月 30 日(日)に「AP 浜松町」で施行予定。筆記試験問題 25 問、細胞像試験(カラープリント)問題 25 問の 50 問(50 点)とガラス鏡検問題 50 点の合計 100 点。回答用紙は今回から OCR 化。医師は全て総合科に統一。歯科医師はガラス鏡検問題のみ歯科口腔領域を選択。

4. 平成 26 年度細胞診専門医資格更新

平成 26 年度細胞診専門医資格更新対象者ナンバーは、0594-0683, 1006-1101, 1309-1386, 1588-1646, 1877-2028, 2367-2476, 2766-2849。細胞診専門医会出席義務廃止、クレジット重視、本法人学術集会(春期・秋期)2 回以上出席要。

5. 施設認定制度の適正運用検討小委員会

教育研修指導医の新設、施設認定・教育研修施設認定制度の充実や見直し目的に設置。

[審議事項]

1. 教育研修指導医認定について

施設認定制度の適正運用検討小委員会の調査報告より、初回の教育研修施設に常勤する細胞診専門医全員を教育研修指導医とし、そのうち第 52 回秋期大会細胞診専門医セミナー不参加者を暫定教育研修指導医とし、28 年度までの教育指導医講習会受講を必須条件とすることが承認された。

施設認定制度委員会(委員長 亀井敏昭)

[報告事項]

1. 平成 25 年度年報提出状況 (提出締切: 平成 26 年 3 月 31 日)。

全 858 認定施設中 提出済 764 施設(89%) 未提出 94 施設(11%)。

年報についての整理は現在進行中。

2. 認定施設の更新

1) 平成 26 年度認定施設更新: 対象施設 35 施設

更新可 22 施設(62.8%): 常務理事会報告後、更新可として書類を該当施設に送付予定。

未完了(年報未提出) 5 施設 未申請 8 施設

2) 平成 25 年度認定施設更新: 対象施設 64 施設

更新可 51 施設(79.7%): 更新可として書類を送付

未完了 2 施設(3.1%) 未申請 8 施設(12.5%) 更新辞退 3 施設(4.7%)

3. 教育研修施設更新

1) 平成 26 年度教育研修施設更新: 対象施設 122 施設

更新書類送付(平成 26 年 5 月)

- 2) 平成25年度教育研修施設：対象施設 44施設
更新可 28施設(63.8%) 未完了 14施設(31.8%) 未申請 2施設(4.5%)
4. 平成26年度新規教育研修施設申請
申請締切 平成26年 6月末日。
(三重県, 奈良県, 南九州等の教育研修認定施設がない県の施設からの申請を希望する.)
5. 内部精度管理 WG活動
例年通り, 8月から9月にかけて立ち入り調査(笹川基 WG長を中心に)
(対象 4施設程度: 新規認定施設 2施設, 年報未提出施設 2 施設)
6. 外部精度管理 WG活動(コントロールサーベイ) 平成25-26年度に実施するコントロールサーベイに関して現在, 廣川満良 WG長と小島勝先生を中心に企画中。
- [審議事項]
特になし

細胞検査士委員会 (委員長 越川卓)

[報告事項]

1. 平成 25 年度 (第 46 回) 細胞検査士資格認定試験
志願者総数 703 名で, このうち 116 名が 1 次試験免除のため 1 次試験の志願者数は 587 名 (関東: 277 名, 関西: 310 名) となった。
1 次試験 (平成 25 年 10 月 13 日 (日) 実施) の受験者は 585 名 (2 名欠席) で 301 名が合格した。
2 次試験 (平成 25 年 12 月 7・8 日 (土・日) 実施) の受験者は 416 名 (欠席 1 名) で 257 名が合格した。
この結果, 来年度の 1 次試験免除者は欠席者 1 名を含めて 122 名となった。
2. 2014 年 CT・IAC 資格更新
2010 年 1 月から 2013 年 12 月までを対象期間として CT・IAC の資格更新を実施した。
3. 退会届の取消し
細胞検査士資格更新委員会から, 一度退会した会員の退会届の取消しについて, 細胞検査士委員会の意見を求められたため, 審議の結果退会届の取消しは認めないことが決定した。
4. 細胞検査士資格認定試験解答用紙の開示請求
平成 25 年度の細胞検査士資格認定試験 2 次試験について, 受験生から解答用紙の開示請求があったため試験委員会で審議の結果本人の解答用紙に限り開示を認めることにした。但し, 試験の内容や採点基準・採点方法などは一切開示しない, また試験結果に関する質問にも一切応じないことを確認し, 細胞検査士資格認定試験実施要領にその旨を記載して受験生に周知することにした。

5. 平成 26 年度（第 47 回）細胞検査士資格認定試験

1 次試験は平成 26 年 10 月 26 日（日）に東京富士大学（関東）および C I V I 新大阪東
研修センター（関西）で実施する予定。

2 次試験は平成 26 年 12 月 13-14 日（土・日）に東京富士大学で実施する予定。

6. 2015 年 CT・IAC 資格更新審査

2014 年 12 月に更新期限を迎える CT・IAC を対象として CT・IAC の資格更新審査を実施
する予定。

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 広岡保明）

〔報告事項〕

1. 平成25年度細胞検査士資格更新者(グレー・カード)

更新予定者（平成26年 4月30日時点）：1655名

更新完了者：1553名(93.9%) 保留者：0名 未申請：39名 更新辞退・退会者：32名

更新未完了者：31名(会費払っていない等の為手続き途中)

2. 平成26年度細胞検査士資格更新対象者メンバー(ブルー・カード)

0069-0137, 0273-0363, 0585-0759, 1061-1146, 1558-1829, 2458-2692, 3458-3666,
4453-4725, 5350-5618, 6204-6369, 6944-7208, 7877-8158

更新予定者：2392名

※震災に遭った方は自己申告での申請も可能とし、できる限り救済する。

〔審議事項〕

特になし

教育委員会（委員長代理 齋藤豪）

〔報告事項〕

1. 平成 25 年度実施済み講習会およびセミナー

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第 122 回細胞検査士養成講習会	平成 25 年 7 月 8-20 日	東海大学医学部：伊藤仁
第 38 回細胞診断学セミナー	平成 25 年 8 月 8-11 日	日本教育会館 教育委員長
第 65 回細胞検査士教育セミナー	平成 25 年 8 月 24・25 日	小松京子（がん研究会有明病 院）日本教育会館
第 66 回細胞検査士教育セミナー	平成 25 年 8 月 31 日-9 月 1 日	畠栄（川崎医大） 倉敷市芸文館ホール
第 66 回細胞検査士ワークショッ プ	平成 25 年 8 月 3-4 日	東京ブロック 実行委員長：石井保吉（医療

		法人社団 ころとからだの 元氣プラザ) 開催場所:日本医科大学
第 67 回細胞検査士ワークショッ プ	平成 26 年 2 月 22・23 日	関東甲信越ブロック 実行委員長:伊藤仁(東海大 学病院) 開催場所:新潟大学

2. 平成 26 年度決定済み講習会およびセミナー

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第 123 回細胞検査士養成講習会	平成 26 年 7 月 7-19 日	東海大学医学部:伊藤 仁
第 39 回細胞診断学セミナー	平成 26 年 8 月 14-17 日	日本教育会館 教育委員長
第 67 回細胞検査士教育セミナー	平成 26 年 8 月 30 日-31 日	鷺谷清忠(株式会社 秋田県 病理組織細胞診研究センタ ー) 日本教育会館
第 68 回細胞検査士教育セミナー	平成 26 年 9 月 6 日-7 日	船本康申(社会医療法人財団 大樹会 回生病院) 松下 IMP ホール
第 68 回細胞検査士ワークショッ プ	平成 26 年 7 月 19-20 日	関西ブロック 実行委員長:田路英作(大阪 がん循環器病予防センター) 開催場所:大阪医科大学
第 69 回細胞検査士ワークショッ プ	平成 27 年 2 月 28 日・3 月 1 日	中国・四国ブロック 実行委員長:中野正行(四国 細胞病理センター) 開催場所:香川大学医学部

[審議事項]

特になし

渉外・広報委員会(委員長 八重樫伸生)

[報告事項]

会議開催日	学会名	会議内容	出席者
平成 25 年 11 月 15 日	社団法人日本専門医 制評価・認定機構	「機構評価委員会からヒアリ ングの現状と展望」について の説明会	佐々木寛・植田政嗣
平成 25 年 12 月 3 日	社団法人日本専門医 制評価・認定機構	臨時社員総会	岡本聡
平成 25 年 12 月 24 日	一般社団法人医療関 連サービス振興会	平成 25 年度第 3 回衛生検査所 専門部会	島山重春
平成 26 年 2 月 20 日	一般社団法人医療関 連サービス振興会	平成 25 年度第 3 回衛生検査所 調査指導中央委員会	八重樫伸生
平成 26 年 2 月 28 日	社団法人日本専門医 制評価・認定機構	平成 25 年度第 2 回社員総会	岡本聡

〔審議事項〕

特になし

社会保険委員会（委員長 稲山嘉明）

〔報告事項〕

1. 平成26年5月27日に開催された内保連総会において、病理関連委員会の設置が承認されたが、その経緯について説明した。
2. 内保連会費が、今年度より10万円から20万円に値上げとなる。

〔審議事項〕

特になし

地域連絡委員会（委員長 児玉省二）

〔報告事項〕

1. 平成 24 年度支部活動報告、連合会活動報告は現在集計中(次の理事会にて報告予定)。
2. 平成 24 年度細胞診検体(定点観測)に関するアンケートの集計。
3. 全国地域連携組織および連合地域組織との連携:契約終了。
地域代表者会議の開催(今年度総会での予定を延期)。
4. 「子宮の日」の活動支援について
制度審議委員会からの地域連携に関する施行細則の改正案が承認され、地域公益目的事業の一環として現在全国で行われている「子宮の日」の子宮頸がん検診推進活動に関して平成 26 年度についても、施行細則に記載されている手続きを事後に行い、日本臨床細胞学会から助成金が支給されることが承認された。

国際交流委員会(委員長 内藤善哉)

[報告事項]

1. 2 国間交流

1) 第 13 回日韓細胞診合同会議

開催日：2014 年 11 月 1 日 (土曜日)

会場：調整中

2) 第 22 回日本・タイ細胞診ワークショップ

開催日 2015 年 1 月 14 日 (水) ～16 日 (金)

開催地：プーケット島で開催予定.

3) 第6回日中細胞診合同会議は開催に向けて日程等調整中.

2. 国際・アジアフォーラム

1) 第55回日本臨床細胞学会春期大会 (会長 中山裕樹)

開催日：2014年6月5日 (木) ～7日 (土)

開催地：横浜 (パシフィコ横浜)

国際・アジアフォーラム (Global Asia Forum)

担当；河合委員，長尾委員

2) 第53回日本臨床細胞学会春期大会 (会長 亀井敏昭)

開催日：2014年11月8日 (土) ～9日 (日)

開催地：山口

国際・アジアフォーラム (Global Asia Forum)

担当；加来委員，南部委員

3. 国際交流報告

カンボジア王国への病理・細胞診断及び病理組織，細胞診標本作製技術に関する交流。
インドネシア，ミャンマー，ベトナムとの学术交流。

[審議事項]

特になし

制度審議委員会 (委員長 川本雅司)

[報告事項]

1. 承認に基づく定款細則，施行細則，内規・申合集の改定を実施した。

[審議事項]

1. 総会決議事項

「定款」改定案提示：総会決議要 (2/3 以上の賛成要)

「会費等に関する規程」改定案：総会承認要 (過半数で承認)

2. 「細胞診専門医会に関する施行細則」，「細胞検査士会に関する施行細則」改定，承認の手順。

IAC 連絡委員会 (委員長 長村義之)

[報告事項]

1. 日本臨床細胞学会(JSCC)会員から Acta Cytologica へは直接投稿する旨 JSCC 編集委員会に依頼した。
2. 前回日本で行われた IAC 試験に関する赤字額の 50%を IAC が負担した。

[審議事項]

1. ICC2016 に向けてのプログラム, IAC Award など IAC との日程調整
2. IAC 試験に関する JJSCC との調整事項

第 19 回 IAC 国際細胞学会準備委員会 (委員長 青木大輔)

[報告事項]

1. ICC2016の開催要綱

開催時期:2016 年(平成 28 年)5 月 28 日(土)- 6 月 1 日(水)(5 日間)

開催場所:パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

2. ICC2016と日本学術会議との共同主催について

日本学術会議に対して共同主催を申し入れ, 2014 年 2 月 3 日のヒアリングの結果, 保留となった。再審査のためヒアリング開催の可否について 2014 年 9 月ころに再度連絡が入る予定である。

[審議事項]

1. ICC2016と同時期に開催される第 57 回日本臨床細胞学会総会(春期大会)は 2016 年(平成 28 年)5 月 27 日(金) - 5 月 29 日(日)の日程で開催されることが決定した。

肺がん学会とのワーキンググループ (委員長 池田徳彦)

[報告事項]

1. 前癌病変と早期扁平上皮癌の喀痰細胞診標本 150 例を 6 施設で見合わせ, 精度管理の検討をした。

[審議事項]

特になし

泌尿器細胞診の報告様式に関するワーキンググループ (委員長 金城満)

[報告事項]

1. コア委員会(4月及び9月): 報告様式の最終案の決定と欧米案とのすりあわせについて Paris system of urinary cytology では現在, 以下の 8 つの small-WG が活動しており, 進捗状況は同一ではない。昨年の 11 月以来, 一堂に会する会議は今までなく, 主にメールでの意見交換や電話会議が主体となっている。I. Nondiagnostic or Unsatisfactory - Barkan; II. Negative for malignancy - Wojcik, Rosenthal; III. Atypical Urothelial

Cells of Uncertained Significance (AUC-US) - Barkan, Piaton ; IV. Atypical Urothelial Cells Suspicious for High Grade Urothelial Carcinoma (AUC-HG) - Rosenthal, Piaton→Rosenthal, Brimo に変更 ; V. Low Grade Urothelial Carcinoma (LGUC) - Wojcik ; VI. High Grade Urothelial Carcinoma (HGUC) - Siddiqui ; VII. Other Malignancies Primary and Metastatic - Hoda ; VIII. Ancillary Studies - Bubendorf, Strojjan-Flezar

2. 泌尿器細胞診の診断ガイドラインを作成し、診断から報告、治療法への反映までの流れを小冊子にして秋期大会を目処に出版するための予算を計上した。報告様式と共に尿細胞診の標準化のためのガイドラインとしたい。
3. 平成 26 年度「泌尿器細胞診報告様式に関する WG」予算案に、委員の海外派遣費を 1 人分の半額補助(25 万円)を盛り込み、11 月に予定している小冊子の印刷費として 50 万円を計上した。
4. 5 月 18 日にコア委員会を行い、最終方針の確認した。
 - 1) 尿細胞診の報告様式は患者関連情報と診断報告は多くはチェック方式を採用することとした。
 - 2) 第 1 段階で検体の適正、不適正を評価し、第 2 段階で細胞診断を 4 段階方式でカテゴリ分類をすることとした。各カテゴリにおいては、高異型度尿路上皮癌検出リスクを付記する。そのために、昨年全国 8 施設より約 400 症例を提供してもらい、各カテゴリのリスク算定をするために現在解析中である。その内容は論文にして発表する予定で、現在執筆中である。
 - 3) 4 段階カテゴリの各カテゴリの名称を検討し、学会中の合同委員会へ提案することにした。
5. 今後の活動計画
 - 1) 11 月までに新尿細胞診の診断標準化のための診断ガイドラインを作成する。
 - 2) 11 月までに泌尿器細胞診の報告様式の最終案を作成する。
 - 3) 関連論文を英文で作成する。
 - 4) 第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会で最終案をシンポジウムで報告する。
 - 5) Paris system との連携を進める。

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士スライド試験問題集作成ワーキンググループ (委員長 広岡保明)

〔報告事項〕

1. 平成 26 年 4 月【細胞検査士細胞像試験問題集】が医歯薬出版社より発刊された。
2. 細胞学会雑誌および細胞学会雑誌抄録集への広告を出す予定(5 回)。
3. 本問題集の広告掲載が終了した時点(秋の抄録集発行時)でWGを終了することとした。

〔審議事項〕

特になし

細胞診ガイドライン作成ワーキンググループ（委員長 内藤善哉）

〔報告事項〕

1. 2014年4月末頃、金原出版社に最終原稿提出予定で、概ね、順調に進んでいる。
2. 第55回日本臨床細胞学会総会（春期大会）にて、婦人科（子宮体部・卵巣・外陰/膣/子宮頸部）、甲状腺、乳腺、体腔液各委員長よりガイドライン内容を発表予定。
3. 現在、peer reviewを進め、問題点など金原出版社とともに協議している。
4. 新しいWHO分類の刊行により、臓器によっては最終原稿提出が遅れる見込みである。
5. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会にて各委員長よりガイドライン内容を発表予定。
6. 2015年3月、細胞診ガイドライン発行予定。
7. 第56回日本臨床細胞学会総会（春期大会）にて各委員長よりガイドライン内容を発表予定。

〔審議事項〕

特になし

口腔細胞診ワーキンググループ（委員長 関根浄治）

〔報告事項〕

1. 口腔細胞診の精度に関する多施設共同調査
平成26年4月5日（土）、学会事務局会議室にて450症例の検鏡を施行。
参加者：細胞診専門医・専門歯科医10名 細胞検査士1名
結果は、第55回日本臨床細胞学会春期大会（学会主導型スタディーの動向報告）にて、発表予定。

〔審議事項〕

特になし

婦人科臨床試験ワーキンググループ（委員長 青木大輔）

〔報告事項〕

1. 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査の併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」（山梨県、千葉県柏市）：
子宮頸がん検診において、細胞診（LBC）にHPV DNA検査を併用することの有用性について比較検討するため症例登録を行った。2014年度も症例登録を継続する方針である。
〔登録症例数〕（2014年3月末集計時）：12,068例（目標登録症例数30,000例）
2. 「子宮頸がん検査における従来法細胞診と液状化検体細胞診の性能比較研究」：
ASC-US以上の細胞診異常を指摘され実施医療機関を受診した被験者を対象として、子宮頸部病変の検出における従来法細胞診と液状化検体細胞診の診断性能を組織診の結

果と比較し評価するために（自己対照前向き観察研究），症例の登録を行っている。

[登録症例数] 慶應大病院 202 例 慈恵柏 7 例 がん研有明 84 例 EDC 登録 合計：293 例(目標 300 例)。逸脱例も考慮して登録期間延長の予定。

[審議事項]

特になし

日本臨床細胞学会雑誌電子ジャーナル化ワーキンググループ（委員長 竹島信宏）

[報告事項]

1. WG では前回理事会の決定事項に基づき，日本臨床細胞学会雑誌の電子ジャーナル化の作業を進めている。
2. 近日に杏林舎，メディカルトリビューン社，インテルナ出版社の 3 社による入札の後，業者を選定する予定。

[審議事項]

特になし

頸部細胞診の自動化判定に関する研究班（委員長 森谷卓也）

[報告事項]

1. 各施設から標本を集めて解析を行っている。機器で読み込めない標本が予想以上に多いが，早期に終了するよう引き続き努力したい。
2. 統計解析を受託する機関より，研究の精度を高める目的で細胞検査士の判定精度保証試験を実施するよう推奨があり，委員会での同意と，標本を提供する川崎医科大学の倫理審査が終了したため，平行して検討を進める。

[審議事項]

特になし

施設認定制度の適正運用検討小委員会（委員長 小笠原利忠）

[報告事項]

1. 教育研修認定施設の現状について
教育研修認定施設：188 施設，勤務細胞診専門医：500 名（平成 26 年 5 月 15 日現在）
2. 教育研修指導医講習会受講状況について
教育研修指導医の新規認定にあたり，第 52 回日本臨床細胞学会秋期大会細胞診専門医セミナー（平成 25 年 11 月 3 日 於：大阪）の受講が認定要件。
認定候補専門医 500 名中，上記講習会に参加した専門医は 244 名（48.8%），不参加専門医は 256 名（51.2%）。施設別では，少なくとも 1 名の専門医が参加した施設は 140 施設（74.5%），1 名も参加していない施設は 48 施設（25.5%）。

[審議事項]

1. 教育研修指導医認定実務について
 - 1) 教育研修認定施設所属細胞診専門医全員を対象に認定作業を開始
 - 2) 上記セミナー不参加の専門医も暫定教育研修指導医として認定
(平成 28 年度までの受講を前提条件)
- 以上が承認された。

細胞診用語解説集作成ワーキンググループ委員会 (委員長 竹島信宏)

[報告事項]

1. 現在、絶版している細胞診用語解説集を改訂する。方向性として、コスト上の問題から書籍として出版するのではなく、ホームページ上に電子媒体として掲載し、とくに、細胞診用語解説集にしか掲載されていない用語に対し重点的に詳細な解説を行う予定である。また、日本医学会の用語集との整合性をとり、細胞診ガイドラインに合わせて作成して行く予定である。委員会の構成を以下の様に決定した。今後は分担割り当てを決定し具体的な作業に入る。作成期間は1 年間を予定。

委員長： 竹島信宏

副委員長： 佐藤之俊，紀川純三

委員：

池上雅博（慈恵病理），岡田真也（保健化学病理），富永英一郎（慶應産婦），矢納研二（鈴鹿中央婦），小松京子（がん研検査士），服部学（北里検査士），河原栄（金沢大病理），河内茂人（山口大病理），三宅真司（東京医大検査士），岡本三四郎（がん研婦），

遠藤浩之（済生会新潟第二病院検査士），阿部英二（北九州市立医療センター検査士）

幹事： 的田真紀（がん研婦）

[審議事項]

特になし

閉会の挨拶： 青木大輔 副理事長

以上を以って本理事会の議題が終了し、平成 26 年度第 1 回理事会を終了した。

平成 26 年 7 月 22 日

この議事録が正確であることを証します。

理事長

佐々木寛 

監事

柏村正道 

監事

長村義之 

監事

長谷川壽彦 